

Nagoya Urban Institute News Letter

ニュースレター



名古屋の
まちづくりと
共に

名古屋都市センター

2011.7 vol.88

名古屋都市センターのある金山南ビル。

[特集]

復興の原点から、まちづくりの明日へ 20周年を迎える名古屋都市センター

Contents

[特集] 復興の原点から、まちづくりの明日へ 20周年を迎える名古屋都市センター	1~3
PERSON	4
まちづくり助成団体紹介	5
名古屋都市センター研究成果	6~7
まちづくり来ぶらり	8
なごやのまち今昔	9
活動報告	10~11
私のお気に入りの場所	11
お知らせ	12



金山の金山南ビルから北方面を臨む。中央が伏見通、左手が名古屋駅周辺で、右手が栄周辺。



終戦直後、復興前の名古屋中心部。

まちづくりを支える、人と情報の交流拠点として

名古屋都市センターが、1991年7月15日の設立から20周年を迎えます。全国に例を見ない先進的な戦後復興を成し遂げ、さらに世界デザイン博、COP10など、さまざま取り組みで時代を先駆けてきた名古屋市。その中でシンクタンクおよび人と情報の交流拠点として、名古屋のまちづくりと共に歩んできた20年でした。その活動を振り返り、これからのまちづくりに向けた課題を見つめ直してみました。

「調査研究」「情報収集・提供」 「人材の育成・交流」をテーマに

名古屋都市センターは「調査研究」「情報収集・提供」「人材の育成・交流」の3つの事業を柱に活動しています。

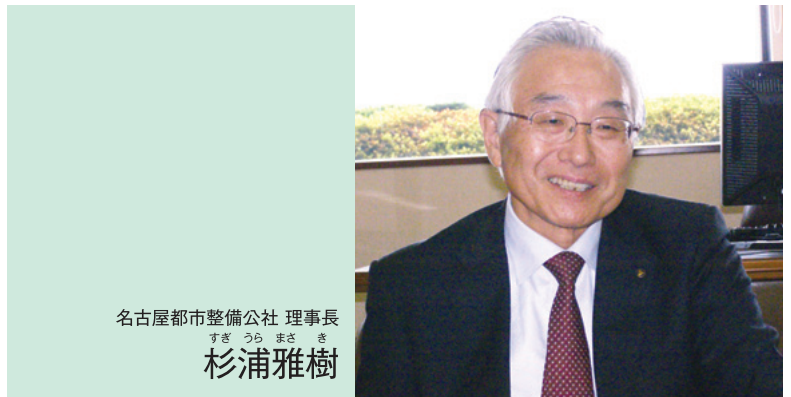
(1)「調査研究」は、名古屋のまちづくりや都市計画の新たな課題を先取りし、その解決に向け幅広い視点から調査研究し、提言などを行うものです。センター職員が取り組む一般研究、若手学識者が取り組む特別研究、市民が取り組む市民研究があり、例えば2008～2010年は「持続可能なNAGOYAへの変革～次世代に引き継ぐ魅力ある都市」をメインテーマに掲げ、取り組みました。

(2)「情報収集・提供」は、市民にまちづくりへの関心と理解を深めてもらうため「まちづくり広場」や「まちづくりライブラリー」を運営しています。また機関誌、広報紙、ホームページなどから情報を発信しています。例えば「まちづくり広場」では「名古屋いま・むかし物語」の写真展示を行いました。

(3)「人材育成・交流」は、まちづくり支援やまちづくり講演会、まちづくりセミナーなど幅広い事業を展開しています。例えば、自分たちの住む地域でまちづくり活動の担い手となる市民を育てる「地域の“まちづくりびと”養成講座」の開催や、まちづくり団体の活動に要する費用を助成する「まちづくり活動助成」があります。また、子供が楽しくまちづくりへの心を養う「だかねランド」事業を進めています。「だかねランド」は日本建築学会教育省を受賞しました。



「まちづくり広場」の常設展示。



名古屋都市整備公社 理事長
すぎ うちら まさ ちき
杉浦雅樹

まちづくりの課題山積、責任はますます重い

名古屋都市センターの原点は、復興土地地区画整理事業です。名古屋は「清須越」による城下町づくりから、近代の都市形成に至るまで、常に先進的なまちづくりに取り組んできました。復興土地地区画整理事業は、まさに名古屋のまちづくりのDNAが開花した、全国に誇ることのできる大事業です。それを後世に伝え、新しいまちづくりに生かすとともに、情報と人が交流し、コンサルティング機能も持つまちづくりの拠点をつくろうと考えました。それが名古屋都市センターです。金山を拠点にしたのは、復興事業の用地があったこと、そして名古屋の新拠点づくりにふさわしい場所だったからです。

今まちづくりは、新しい課題に直面しています。少子高齢化と成熟型社会への対応です。人と環境にやさしいコンパクトシティへの取り組みは、答の一つです。東日本大震災は、安全なまちづくりがいかに急務かを、われわれに突きつけました。名古屋都市センターの役割は、こうした課題を提示し、調査研究し、解決に導く学識者と市民団体と行政のコラボレーションを実現することです。20周年を機に、その責任の重さをスタッフ全員、改めて自覚する必要があります。



「だかねランド」の取り組み。